

口蹄疫無事に終息

～ご理解とご協力ありがとうございました～



口蹄疫は4月20日、宮崎県都農町の肉用牛繁殖農家で見つかり、10年ぶりに確認されました。国内では初となる豚への感染を皮切りに感染が急激に拡大し、5市6町に広がり、最後に確認された7月4日の宮崎市まで被害農家は計292例に上りました。また、ワクチンを接種した家畜も含め、最終的に処分された牛や豚は、288、643頭と最悪の被害が出しました。

家畜の殺処分を終えた7月27日に、非常事態宣言と移動・搬出制限区域は解除され、また、宮崎県内の農家約8100戸の目視などによる清浄性検査と畜舎に残った家畜の排せつ物に含まれるウイルスの無害化処理を終えたことから、先月26日に終息が宣言されました。

その間、口蹄疫の影響は畜産業界に留まらず、飲食店や宿泊施設など商工業界へも莫大な経済損失を与えました。

4カ月余りという長期間に及ぶ苦闘の中、畜産農家の皆様には、飼養家畜の観察及び消毒作業の徹底、農場への出入りの制限をしていただきました。また、住民の皆様においては、夏まつり等の各種行事の自粛や延期、発生地付近への移動の制限、商店街では出入口での石灰



の散布や消毒マット設置のご協力と、来客者のご理解をいただきました。また、職員においても肝属地区口蹄疫対策協議会で設置した4カ所の消毒ポイントやなんぐう地区への侵入を阻止するために南大隅町及び農協と設置した消毒ポイントで、昼夜を問わず作業に従事致しました。

町民の皆様にご理解とご協力を賜りましたことに対しまして、厚く感謝申し上げます。

子牛のせり市場も無事に再開されました。(せり市結果は左記のとおりです。)畜産農家の皆様におかれましては、大変厳しい状況下とは存じますが、今一度家畜衛生管理基準を遵守していただき、安定した畜産経営に努めてくださるようお願い申し上げます。

畜産農家から一言



上鶴 広己さん夫婦

(本町で最も規模が大きい子牛生産の農家です。)

「本地区へ侵入しないだろうか、我が家で発生してしまったら…」と不安が募る日々が続き、更には3カ月間無収入でつらい毎日でしたが、その間、関係機関の皆様には消毒作業に従事していただき、また、住民の皆様におかれましても、各種イベントの中止や延期、車両や靴底等の消毒等、多大なご協力により、無事に終息をむかえることができました。

8月に入りまして、延期されていた子牛せり市が再開され、約40頭の子牛を販売しました。価格は4月とそれほど変わらない相場で取引されましたが、通常より約90日～40日間長く飼った影響で飼料費が多くかかり、経営的には厳しい状況で当分は3カ月間の飼料代支払いに追われそうです。しかしながら、せり市が再開されたことが何よりだと感じています。

行政や農協等関係機関のご指導とご支援、そして、住民の皆様の口蹄疫侵入防止に対するご理解とご協力を賜り、心から感謝申し上げます。

養豚業・ブロイラー業からすると肉用牛に携る我々は、衛生対策に対して認識が甘いです。今後は肉用牛農家においても衛生・防疫対策の重要性をしっかりと認識して、日頃から消毒を徹底し、口蹄疫に拘わらず家畜疾病の侵入防止に努め、経営の安定と畜産振興を目指し、本町の活性化に努めてまいりたいと思います。

最後になりますが、今後も牛肉・豚肉・鶏肉の消費拡大にご協力くださるようお願い申し上げます。